

“臨床への応用”を意図した薬理学教科書

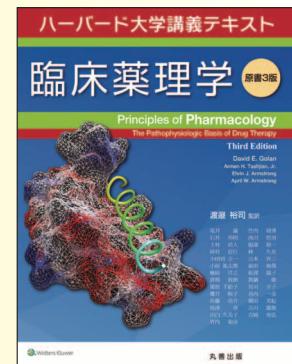
ハーバード大学講義テキスト 臨床薬理学 原書3版

渡邊 裕司（浜松医科大学医学部 臨床薬理学講座 教授）監訳

A4変型・1,200頁 定価（本体13,500円+税） ISBN978-4-621-08916-3

ハーバード大学医学部教員と学生の共同執筆が“究極の薬理学の真髓”に迫る

ハーバード大学医学部学生と熱烈講師陣のコラボレーションによって誕生した臨床薬理学の世界的名著。初版から大幅な改訂を加え、最新の情報を網羅した待望の第三版日本語版が、ここに完成。本書は、学ぶ側の視点が随所に採り入れられているだけでなく、薬理学の基本的概念や個々の医薬品の作用メカニズムを理解し、それらを“いかに臨床へ応用し患者の薬物治療に役立てていくか”に主眼が置かれています。臨床薬理学の究極の目的「最適な薬を、必要とする患者に、適切なタイミングと用量で投与する」を実現するべく、ハーバード流の学習方法をぜひ体得してください。



主要目次

第1節：薬理学の基礎

- 1章 薬物-受容体相互作用
- 2章 薬力学
- 3章 薬物動態学
- 4章 薬物代謝
- 5章 薬物毒性学
- 6章 薬理ゲノミクス

第2節：神経薬理学の原理

第2節：A：神経薬理学の基礎

- 7章 細胞興奮性と電気化学伝達の原理
- 8章 神経系の生理学と薬理学の原理

第2節：B：自律・末梢神経系薬理学の原理

- 9章 コリン作動性の薬理学
- 10章 アドレナリン作動性の薬理学
- 11章 局所麻酔薬の薬理学

第2節：C：中枢神経系薬理学の原理

- 12章 GABA作動性およびグルタミン酸作動性神経伝達の薬理学
- 13章 ドバミン作動性神経伝達の薬理学
- 14章 セロトニンとアドレナリンの中枢神経伝達の薬理学
- 15章 中枢神経系における異常電気神経伝達の薬理学
- 16章 全身麻酔薬の薬理学
- 17章 鎮痛薬の薬理学
- 18章 乱用薬物の薬理学

第3節：心血管系薬理学の原理

- 19章 コレステロールとリポタンパク代謝の薬理学
- 20章 体液調節の薬理学
- 21章 血管緊張の薬理学
- 22章 止血と血栓の薬理学
- 23章 心臓リズムの薬理学
- 24章 心収縮性の薬理学
- 25章 心血管系にかかる薬理学総論：高血圧、虚血性心疾患、心不全

第4節：内分泌系薬理学の原理

- 26章 視床下部と下垂体の薬理学

27章 甲状腺の薬理学

- 28章 副腎皮質の薬理学
- 29章 生殖の薬理学
- 30章 脾内分泌および糖ホメオスタシスの薬理学
- 31章 骨・ミネラルのホメオスタシスに関する薬理学

第5節：化学療法の原理

- 32章 抗菌薬、抗がん薬の薬理学の原理
- 33章 細菌感染症の薬理学：DNA複製、転写、翻訳
- 34章 細菌およびマイコバクテリア感染症の薬理学：細胞壁合成
- 35章 真菌感染症の薬理学
- 36章 寄生虫症の薬理学
- 37章 ウィルス感染症の薬理学
- 38章 がんの薬理学：ゲノム合成、安定性、維持
- 39章 がんの薬理学：シグナル伝達
- 40章 併用化学療法の原理

第6節：炎症と免疫薬理学の原理

- 41章 炎症と免疫系の原理
- 42章 エイコサノイドの薬理学
- 43章 ヒスタミンの薬理学
- 44章 造血と免疫調節の薬理学
- 45章 免疫抑制の薬理学
- 46章 炎症にかかる統合薬理学：消化性潰瘍
- 47章 炎症にかかる統合薬理学：喘息
- 48章 炎症にかかる統合薬理学：痛風

第7節：医薬品開発と規制の基礎

- 49章 医薬品探索研究と非臨床開発
- 50章 医薬品の臨床評価と承認
- 51章 副作用の系統的な検出

第8節：環境毒物薬

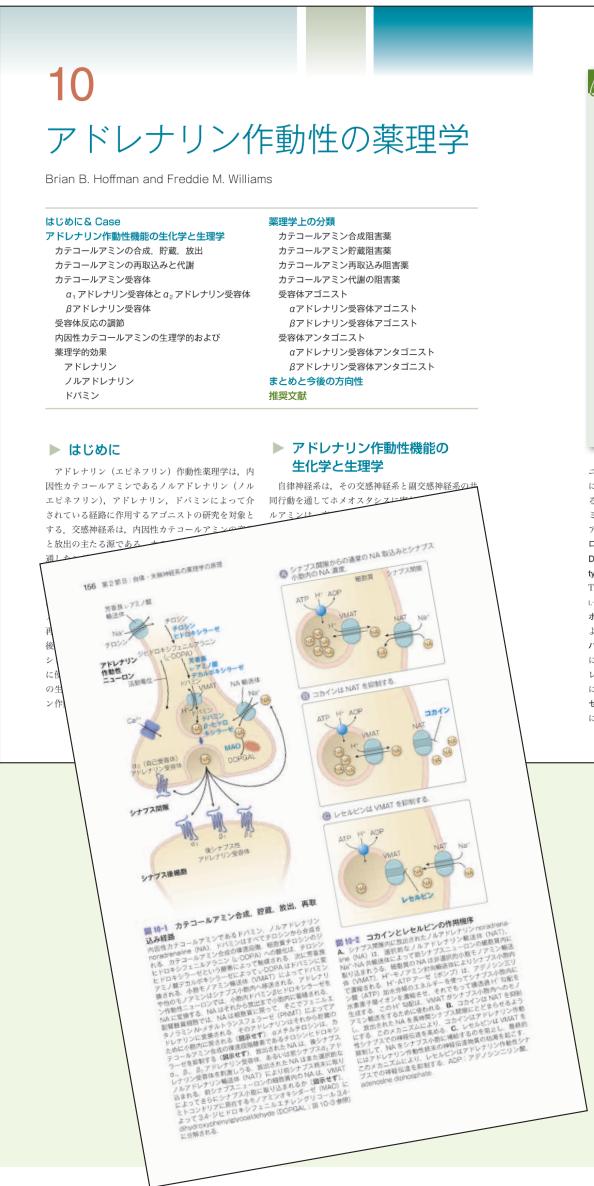
- 52章 環境毒物学

第9節：薬理学の最前線

- 53章 タンパク質医薬品
- 54章 ドラッグデリバリー

- 生理学、生化学、病態生理学に基づく薬理作用をあらわした臨床への応用を意図した薬理学テキスト
 - 全章フルカラー化およびイラストの刷新および追加（450点）
 - 各章にCase（症例と問題）が付され、本文解説中に回答箇所をアイコン表示
 - 各章末の「主要薬物一覧表」では、その章で解説された薬物の「分類」「臨床応用」「副作用」「禁忌」「治療的考察」が一覧可能（臨床におけるクリックレスポンスの「虎の巻」として有効）

↓ 章冒頭のCaseでは、その章で学ぶ薬理作用の事例と設問が提示



九善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル6階 書籍営業部 TEL(03)3512-3256 FAX(03)3512-3270
<http://pub.maruzen.co.jp/>

主要薬物一覧：第10章 アドレナリン作動性の薬理学（持続）				治療の考査
薬名	脂溶性	作用性	作用場所(最も多くは本体で示す)	
モノアミンシーケーリバクタム (MAOB) メチルカルバム MAO-B 抑制。カニコール・ミオミン等にプロックすることにより、カニコール・ミオミンへの活性を加速させる。	強	強	脳	
phenelzine pimozide transcyclycine clorgyline buproprion moclobemide セレビギン	第14章、セトロニンのアドレナリンとの中枢神経伝導の薬理学、主要薬物-精神疾患			
α ₁ アドレナリン受容体アゴニスト α ₁ アドレナリン受容体アゴニスト α ₁ アドレナリン受容体アゴニスト	強	強	心臓、血管、筋肉、眼、頭痛、不眠	ショックの治療においてよく使われる利尿作用
methoxamine	強	強	心臓、血管、眼、頭痛、不眠	
フェニルブリ オキサジタルミン タクロリゾリソ	低活性 (フェニ オキサジタルミ タクロリゾリソ)	心臓強調、高血圧 心臓抑制、不眠、精神疾患、反射性 低血圧 (フェニ オキサジタルミ タクロリゾリソ)	心臓強調 血管緊張性 眼 頭痛、不眠、精神疾患、反射性 低血圧	各種疾患の治療には本物の「アドレナリン」や「Vaso」において用いられていない。既往のリバウンドがきたたりて本薬の作用に困窮してしまふ。 フェニルブリはまたショックの治療に疑似的効果が認められる。
α ₂ アドレナリン受容体アゴニスト	メカニズム-選択性-アゴニスト	アドレナリン自体を活性化し、それにより血管の交感神経由来を抑制する。		
クロニジン アラセタミジン グランザチ guanethidine メタレドリパ	高活性 中活性 中活性 中活性 低活性	高活性 中活性 中活性 中活性 中活性	心臓、心肺、肝胆、肝臍 心臓、心肺、肝臍 心臓、心肺、肝臍 心臓、心肺、肝臍 心臓、心肺、肝臍	MAO-B 活性と活動性筋弛緩 (メタ レドリパの作用の結果)
				クロニジンは高活性オピオイド受容体の治療に用いられる。 メタレドリパは利尿作用と血压低下の治療に特異的である。

↑ 各章末の「主要薬物一覧表」、臨床応用、副作用、禁忌、治療の考察などに分類

◀ 薬理作用の臨床応用への理解に役立つ精緻なイラスト

由善出版發行 FAX 03-3512-3270

取扱店

ハーバード大学講義テキスト
臨床薬理学 原書3版

1

七夕前

二住所 〒

TEI

*ご注文をいただいた個人情報は、書店・取次（流通）・弊社間での商品手配の目的に利用させていただきます。